

KAEDE TIMES 2025

在宅療養支援
楓の風



在宅生活を支援するー私たちの試行錯誤

ー在宅を支える全てのみなさまへー

私たち、「楓の風」スタッフが、どのような想いで在宅支援をしているのかを、一人でも多くの方に知っていただきたい！と思いま

「楓の風」らしい取り組みをご紹介する、ニュースレターをはじめました！

ee

Case 4

在宅で暮らす中で、生活環境が荒れ、自らを顧みられなくなる「セルフネグレクト」に陥る方がいます。その背景には孤独や喪失感、強いこだわりがあります。

今回の事例では、ご本人の趣味や思いに共感しながら、「ここで生きたい」という願いを尊重し、生活再生へとつなげることができました。

ケース

荒れた環境+セルフネグレクト…処置だけでなく、対話から本音を引き出す

糖尿病末期で足指の切断をせざるをえなかったAさん。創傷処置のため病院から訪問看護依頼がありました。生活保護で独居、同じ敷地内にご親族が住んでいるも疎遠…。

部屋は物やゴミで埋め尽くされ、“眠るために横になることすらできない状態”だったため、環境改善を促しましたが、ご本人は頑なにその空間で日常を送っていました。

「この時間（訪問看護）が唯一、人と話ができる時間なんです…」

環境改善には消極的でしたが、訪問看護で雑談を重ねる中で、
「（本当は）横になって眠りたい」という本音を引き出すことができました。
さらに「この時間は唯一、人と話ができる時間なんです」と語られ、
訪問看護が心の支えであることが明らかになりました。



具体的な関わりとケアの工夫

- ・創傷処置をしながら プラモデルやフィギュアの話題で共感を重ねる
- ・ケアマネ・生保担当・支援課・清掃局と連携し、支援枠組みを構築
- ・1年後に支援課と一度清掃、その半年後に清掃局が介入
- ・スタッフ全員で、本人のペースを尊重して介入し、価値観を押し付けないように配慮



拒否の裏にある孤独や喪失に目を背けない

最終的に、清掃局にトラック3台分の荷物を処分していただいたことで、生活環境は大きく改善し、「横になって眠りたい」を実現できました。

ご本人様が笑顔で「人に気にかけてもらうことは嬉しいですね」とおっしゃっていたのは印象的でした。

一見、拒否に見える行動の裏には、長年の孤独や諦め、深い喪失感が潜んでいることがあります。

在宅看護師として、ただ処置に入るだけでなく、対話から真意を汲み取れたことが、生活再生へと繋がったと感じることができました。

